

わんにゃん通信 7月号

最近暑さが増してきて、冷房が手放せなくなりました…
熱中症が怖い時期なので、人も動物も対策を忘れないように気を付けて夏を過ごそうと思います。

今回は感染するととても怖いパルボウイルス感染症についてです。

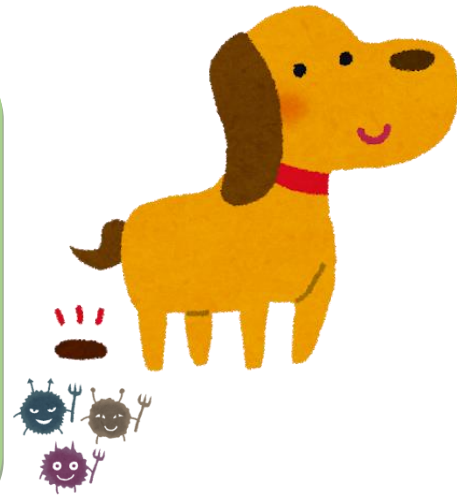


パルボウイルス感染症とは？

犬は犬のパルボウイルス、猫は猫のパルボウイルスに感染します。猫のパルボウイルスは「猫汎白血球減少症」とワクチン証明書に記載されています。

嘔吐や下痢、白血球の減少を特徴とする感染症です。感染力も非常に強く消毒にも抵抗性があり、乾燥にも強く空気中でも長期間生き残ることができます。

主に糞便中に排泄されて、口や鼻から体内に入り込み、骨髄や腸粘膜などの細胞分裂が盛んな細胞に感染し増殖します。



症状



急激な嘔吐、水下痢、血便、元気消失、発熱、嘔吐などを起こします。嘔吐や下痢が続くと脱水症状も出てきて危険な状況になります。さらに、病状が進行すると白血球のひとつである好中球が減少してくることもあり、より致命的な状況になっていきます。



犬と同様に腸炎の症状も起こしますが、猫では下痢や嘔吐といった腸炎症状よりも白血球減少症が早くから出てくることが多いです。

白血球の減少で免疫機能が落ちている、さらに腸粘膜の破壊されることで起こる下痢や血便で栄養が取れない状態になると細菌の二次感染が起こり全身に細菌や毒素がまわって敗血症になり、体の機能を維持できなくなり死に至ることが多いです

治療

パルボウイルス感染症の致死率は非常に高く、特効薬もなく対症療法をするしか治療法がありません。点滴や抗生物質での治療が主となります。しかし、治療の甲斐なく死亡してしまうこともある病気です。（早い場合発症から1~2日で死亡してしまうことさえあります）

予防

パルボウイルス感染症は予防が一番の対策になります。パルボウイルスは、感染力も強く熱や乾燥にも比較的強いため、環境によっては爆発的に感染が広がる可能性もあります。どこで感染するかわからない病気ですので、感染しないように自身の免疫力をしっかりとつけておくことが非常に重要です。

そのためには混合ワクチンを定期的にしっかりと受けておくことが大切です。

ワクチン接種について

ワクチンはコアワクチン、ノンコアワクチンに分けられます。生活環境問わず、全ての動物に推奨されるのがコアワクチン、暮らす地域環境や暮らし方などのその犬の感染のリスクに応じて接種すべきワクチンがノンコアワクチンとされています

当院での取扱ワクチン

- 5種混合ワクチン
- 10種混合ワクチン

- 3種混合ワクチン
- 4種混合ワクチン

犬コアワクチン

狂犬病ウィルス（狂犬病）
イヌジステンパーウィルス
イヌパルボウィルス
イヌアデノウィルス 1型（犬伝染性肝炎）

犬ノンコアワクチン

イヌアデノウィルス 2型
（犬伝染性喉頭気管炎）
イヌパラインフルエンザウィルス
イヌコロナウィルス
イヌレプトスピラ

猫コアワクチン

ネコパルボウィルス
（猫汎白血球減少症）
ネコヘルペスウィルス 1型
（猫ウィルス性鼻気管炎）
ネコカリシウィルス

猫ノンコアワクチン

ネコ白血病ウィルス FeLV（猫白血病）
ネコクラミジア（クラミジア・フェリス）
ネコFIVウィルス（猫免疫不全ウィルス感染症）

本院では犬は10種混合と5種混合、猫では4種混合と3種混合のワクチンを準備しています。どのワクチンを接種するかは生活環境によって変わるので、獣医師と相談の上で決めて下さい。

